

埋文ふじのみや

MAIBUN

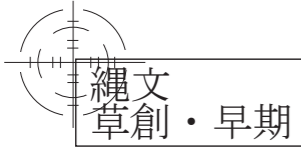
Vol.4



平成最後の
埋文だより。

高山寺式土器（尖底土器）

遺跡紹介の第一弾は、『縄文遺跡特集』。富士宮市内で発見・調査された縄文遺跡を番号にわたって紹介していきます。各遺跡から出土した、魅力的な縄文土器も必見！ 縄文ブームの今、身近な遺跡から詳しくなってみませんか？



Wakamiya 若宮遺跡

わかみやいせき

富士宮市小泉
調査年 / 1979・1980・1981年

縄文早期の大集落

若宮遺跡は、西富士道路の旧料金所付近の小高い丘陵から南向きの斜面一帯に広がる縄文早期（8千5百年前頃）の大遺跡です。東西 120m、南北 50mの範囲に堅穴住居跡 28 棟、炉穴跡 60 基、集石土坑跡 13 基などが発見され、発見当時は全国クラスの早期遺跡として注目されました。径 2～3mの小形の住居内に炉は築かれず、野外炉として炉穴や集石土坑、集石などで調理を行う、早期集落の生活の様子が明らかになりました。遺物は土器の内外面に縄目文様をつけた表裏縄文土器や撚糸文土

器、棒状の工具で格子目・山形・楕円などの文様をつけた押型文土器、およそ1万5千点が出土しました。その出土量もさることながら、関東系の撚糸文文化圏と中部系の押型文文化圏が重なり合った特徴的な遺跡として位置づけられました。また、石器は有舌尖頭器・石鏃の狩猟器、石皿・磨石・凹石などの調理具、石斧・石匙・石錐などの農工具が 2,715 点出土し、この時期に縄文石器の器種が確立されたことが分かりました。中でも、石器のうち 80%を占めた石鏃の出土は狩猟の方法が槍から弓矢に変化したことを物語っています。

報告書 / 『若宮遺跡』1983年



調査風景



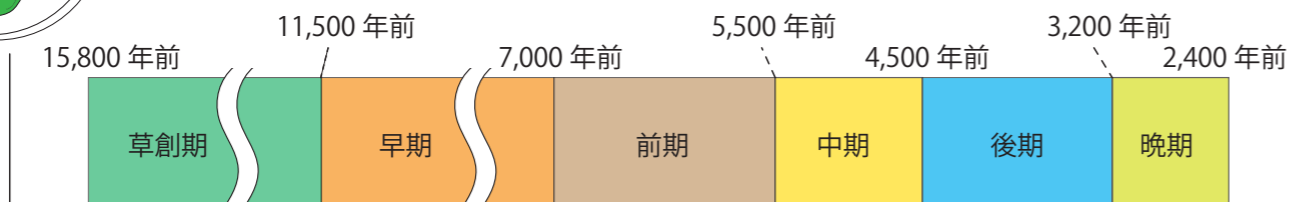
調査区全景（東地区）

Wakamiya

考古学の
まめ知識

縄文時代の6区分

縄文時代は、土器の形式から6つ（草創期、早期、前期、中期、後期、晩期）に区分されます。



小林 2017 『縄文時代の実年代』 同成社に準拠



各種出土土器

1. 撚糸文土器
2. 山形押型文土器
3. 楕円押型文土器
4. 格子目押型文土器



1



2



3



4



堅穴住居跡

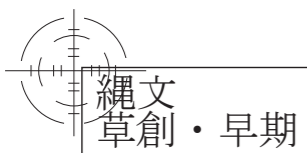


集石土坑



炉穴

Wakamiya



Komatsubara 小松原 A 遺跡

こまつばらエーいせき

富士宮市沼久保
調査年 / 1987 年

草創期終末の中継遺跡

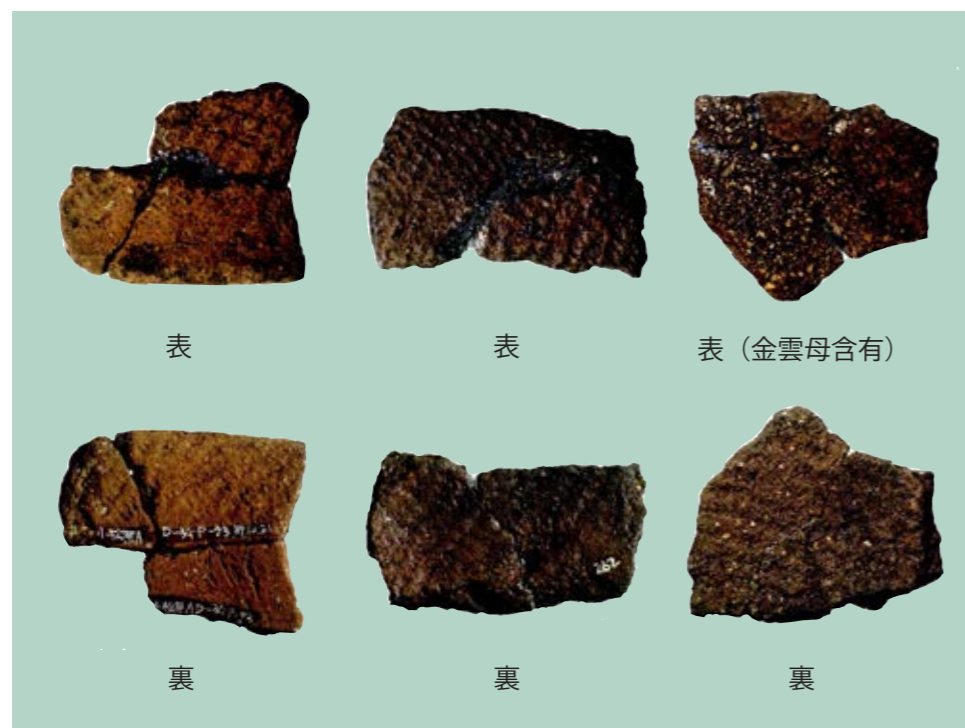
小松原 A 遺跡は、縄文草創期（1万年前頃）から早期（9千年前頃）の遺跡です。JR 沼久保駅の南の小松原台地の浅い谷に土器片が流れ込んでいる状況で発見されました。土器片は縄文草創期の表裏縄文土器と早期の撚糸文土器、さらに貝殻で文様を施した条痕文土器などに限られます。表裏縄文土器は大鹿窪遺跡に後続する土器であり、類似した胎土を持ちます。この土器は、早期の大集落である小泉の若宮遺跡から出土する最初の土器です。このこと

から、大鹿窪遺跡から^{はぶな}羽鮒丘陵の先端を回って富士山側に生活拠点を広げていった中継地点であったと考えられます。

報告書『小松原A遺跡』1989年



調査風景



表

表

表（金雲母含有）

裏

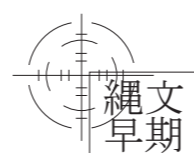
裏

裏



土器出土状況図

表裏縄文土器
表と裏、両面に縄文が施されている



Kurodamukoubayashi 黒田向林遺跡

くろだむこうばやしせいせき

富士宮市黒田
調査年 / 1985 年

早期の石器製作工房

黒田向林遺跡は、富士宮ゴルフクラブ東側の小高い丘陵の狭い東向き斜面に築かれた縄文早期（8千年前頃）の単独遺跡です。狭い範囲に1~2mほどの土坑跡3基と小礫の散布が見られました。面積の割に多くの土器片や石器が出土し、特に164点の石鏃や^{たたきいし}敲石の存在から、石鏃の製作工房跡であったことが予想されます。押型文土器の後半に出現する外面に押型文や撚糸文を施文し、内面に螺旋状の凹みを施すことを特徴とする高山寺式土器の優良遺跡です。

報告書『黒田向林遺跡』1986年



高山寺式土器（尖底土器）

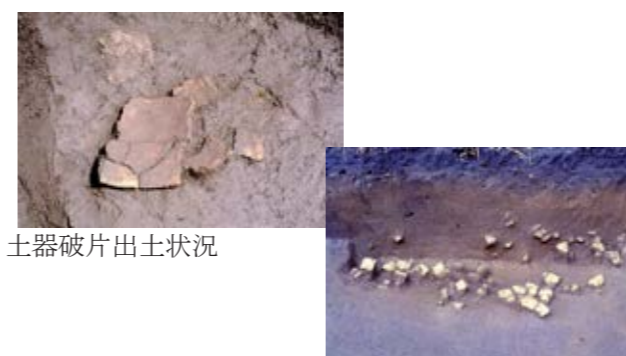


高山寺式土器（表）



高山寺式土器（裏 らせん状凹み）

発掘調査区全体図



土器破片出土状況

土坑に内包される礫

※高山寺式土器



遺跡から富士宮の原始・古代を考える 邪馬台国時代の富士宮

Ⅲ. 邪馬台国前夜②

2世紀中頃の「倭国大乱」は、100年に及ぶものとなり、その後邪馬台国や卑弥呼の登場となります。その様子が中国の歴史書『三国志』卷三十烏丸鮮卑東夷伝倭人条に書かれているのです。この歴史書がいわゆる『魏志倭人伝』のことを指していることは、よく知られています。つまり、『三国志』の中の東夷伝のひとつが『魏志倭人伝』となるのです。

『魏志倭人伝』に次の一文があります。少し長くなりますが、載せてみます。

[その国、本または男子を以て王となし、住(とど)まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす。名づけて卑弥呼という。鬼道に事(つか)え、能(よ)く衆を惑わす。年已(すで)に長大なるも、夫婿(ふせい)なく、男弟あり、佐(たす)けて国を治む。王となりしより以来、見るある者少なく、婢千人を以て自ら侍せしむ。ただ、男子一人あり、飲食を給し、辞を伝え居処に出入す。宮室・楼観・城柵、巖かに設け、常に人あり、兵を侍して守衛す。]

これによると、いくつかの国が連合して共に立てて王とした卑弥呼が登場する前に倭国が乱れ、争いの続いたことが分かります。そして、この後に成立した『後漢書』倭伝には、その年代を桓帝・靈帝の時代として

います。これが桓霊の間(147～189年)となるのです。

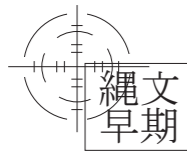
弥生時代は、水田農耕を基盤とした農耕村落(ムラ)が登場するとともに、水田農耕を中心とした生産技術の進展によるクニグニへの発展が促されます。さらに、クニグニは統合を繰り返しその規模を大きくしていきました。クニの構築に際して、それぞれが友好的に統合するだけではありません。幾度かの争いがあったのです。

クニの形成とは別に、2世紀前半の弥生時代後期に自然災害を要因として集落の海岸部から丘陵～山間地への移動により生活の環境が大きく変わることは前に述べました。それは、同時に不安定な集落経営が強いられることにもなったものと考えられます。生産物の収奪などが日常的に行われたかも知れません。

このころは、それぞれの首長(リーダー)が連合して国の形成が進行したのと考えられていますが、自然災害が追い打ちをかけて、首長間の争いが激化したのではないかと考えます。それが「倭国大乱」ではないでしょうか。この頃の市内の代表的な遺跡として、黒田の月の輪上遺跡や滝戸遺跡などが取り上げられます。

(以下次号)

※月の輪上遺跡や滝戸遺跡の出土品は、駿河湾沿岸地域の代表的なものとして捉えられています。埋蔵文化財センターの展示室で見ることができます。

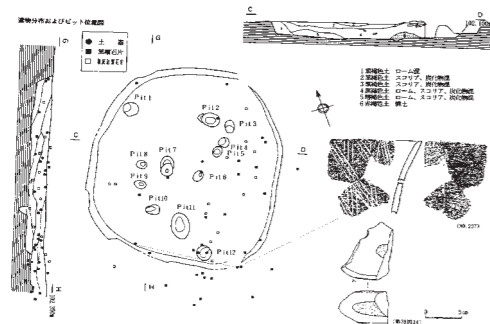


Isshiki 石敷遺跡

いっしきいせき

早期中葉の竪穴住居跡

石敷遺跡は、代立寺南側の緩やかな丘陵に縄文早期と弥生後期・古代が重なる遺跡です。早期(8千年前頃)には押型文土器文化の終末の穂谷式土器をもつ集石土坑跡1基が見つかりました。この土器には山形押型文と沈線や刺突文が描かれ、次型式の沈線文系土器群の要素がとり入れられています。続く沈線文系の土器をもった竪穴住居跡も見つかっています。長径が3mほどの楕円形の住居跡で柱穴や小穴が掘られていました。床面には焼土や炭化した木材が散らばっており火災にあったことが



竪穴住居跡出土物実測図



竪穴住居跡完掘

富士宮市小泉
調査年/1999年

予想されます。しかし、炉跡と思われる焼土は見られず、早期中葉の段階では住居内に炉をもつことができなかったものと思われる。 報告書『石敷遺跡』2000年



穂谷式土器(表)



穂谷式土器(裏)



沈線文系土器群

※穂谷式土器…棒状の工具を削って文様をつけたものを土器の表面に転がして、山形文を全面縦位に施文するものと、山形文を口縁部に横位に、その下は縦位に施文するものがある。突線や沈線を施すものもある。また、内面にも押型文(山形文)を施す。

次号の案内

富士宮市内で見つかった

縄文時代の遺跡特集 2

富士宮市の見どころ案内 3月～5月の予定

第69回富士宮ますつり大会 3月3日(日) 7:00～受付(事前申込不要)

富士宮に春を告げるますつり大会。各種目(にじます:大人の部、子供の部/あまご:共通)上位3位まで、商品を用意しています。

場所:神田川 参加料:大人(男性3,000円、女性1,500円)、中学生1,500円、小学生以下500円

主催:富士宮市非出資漁業協同組合

問い合わせ先:fujinomiagyokyo@hotmail.com

狩宿さくらまつり 4月14日(土)・15日(日)

舞台公演や田楽座、日舞、地元特産品の販売などが開催されます。狩宿の下馬桜は樹齢800年以上と言われ、日本五大桜の一つです。

問い合わせ先:富士宮市観光協会 0544-27-5240

流鏝馬まつり 5月4日(土)～6日(月)

800年以上の歴史を持つ、古式ゆかしいまつりです。本祭の5日には市内練行の後、境内桜の馬場にて鎌倉武士の狩り装束のいでたちで、勇壮な小笠原流流鏝馬式が行われる。

問い合わせ先:富士宮市観光協会 0544-27-5240、富士宮市役所観光課 0544-22-1155

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地 〒419-0315

静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日

* 祝日及び年末年始(12月28日～1月3日)は休館

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

* 埋蔵文化財センターの業務時間は

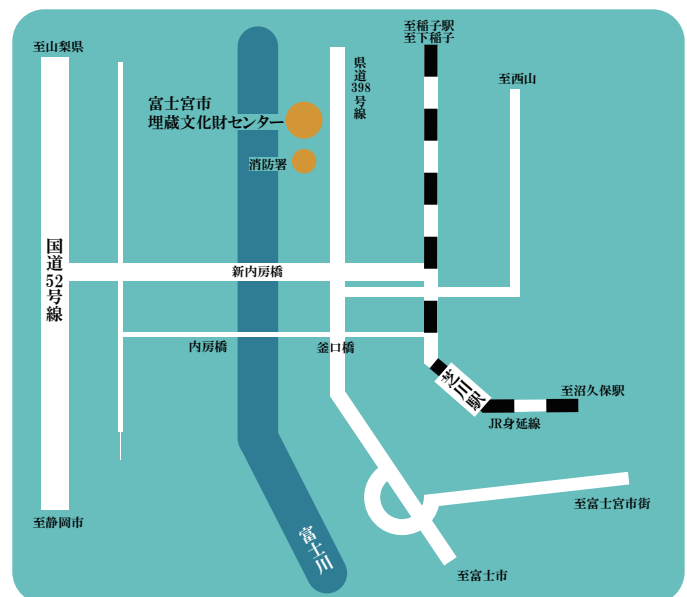
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり(無料)



交通案内



富士宮市埋蔵文化センターだより

埋文ふじのみや Vol.4

平成31年3月

編集/発行 富士宮市埋蔵文化財センター